

2019 年度けいじゅヘルスケアシステム業績集発刊にあたって

2019 年は平成から令和への変換の年であった。特に、4 月から労働基準法改正が施行され、働き方改革元年となったと言えよう。

われわれの働き方改革の狼煙は 1994 年に全国で初めて三菱商事と立ち上げた診療材料管理システムであった。これは、看護師業務から物品管理業務を物流業者と IT にタスクシフトするものであった。さらに、全国に先駆けて進めてきた IT システムは、これまでの業務の効率化をその導入思想としてきた。この流れは、7 月より恵寿総合病院外来に AI 問診システムを導入したことや年度末より取り組む RPA(Robotic Process Automation)にもつながっていくものである。



また、働き方改革としては、この効率化（生産性向上）とともに健康経営も重要な要素と認識する。7 月からは董仙会、徳充会の全職員を対象として臨床心理士等が 24 時間 365 日フリーダイヤルで対応する「けいじゅこころの相談室」を開設した。2 月には 2018 年、2019 年に引き続き健康経営優良法人（ホワイト 500）2020 も取得し、その延長線上に位置する「けいじゅ健康保険組合」の 2020 年 4 月 1 日設立への大詰めの準備の年度ともなった。さらに定年制廃止等の 2020 年度への実行へ準備・検討を行うことができた。

今後の高齢社会、人生 100 年時代を見据えた地域における生活支援の取り組みも法人経営の大きな柱とした。10 月には溶けないアイスクリーム「脳活アイス」の開発販売、11 月には歩様の解析とサンダル、体操による「Foot 活プロジェクト」、そして 12 月には「ジェノプラン・遺伝子解析サービス」などを立ち上げた。

また、職員のキャリアデザインを中心とする教育研修も充実した。特に、看護部では、看護師特定行為研修修了看護師は全国有数の 16 名となった。また、介護部門では介護グランプリへの挑戦を機会に技術の見直しが進み、さらに国立研究開発法人・産業総合研究所との共同研究でベテラン職の暗黙知を IT の利用で見える化するプロジェクトも進んだ。

一方、11 月に中国・武漢で新型コロナウイルス感染症が報告されて以来、パンデミックとして全世界を席捲した。特に年度の終わりから年度の初めに、董仙会、徳充会の一部の事業の停止、削減せざるを得なかった。加えて、私たちの生活様式は一変した。

BSC（Balanced Score Card）による目標管理制度も定着しつつあった。2019 年度は両法人ともに黒字決算となった。2020 年度の新型コロナウイルス感染症の席捲の影響は計り知れないものの、両法人でオンライン会議やオンライン面会、オンライン診療、オンラインリクルートなどに関して創意工夫が進みつつある。2019 年度は With コロナの時代に向かったのイノベーションを引き起こす準備の年だったかもしれない。

令和 2 年 6 月吉日
けいじゅヘルスケアシステム理事長
神野 正博